2013年11月1日

各　　位

会　社　名　**アステラス製薬株式会社**
代　表　者　代表取締役社長　畑中　好彦
コード番号　４５０３
（URL　　http://www.astellas.com/jp）
東　　証　（　第　一　部　）
決　算　期　３月
問合わせ先　広報部長　　河村　真
Tel：（０３）３２４４－３２０１

アステラス製薬　2013年度第2四半期　決算説明会資料について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：畑中 好彦）は、2013年11月1日（金）15時30分より、証券アナリスト・機関投資家・報道機関の皆様向けに2013年度（2014年3月期）第2四半期（2013年4月1日から9月30日までの累計期間）の決算説明会を開催します。

同説明会の資料は別紙の通りですが、2013年度第2四半期決算の概況、2013年度通期業績予想並びに開発中新薬の進捗状況等についてまとめています。

以　上

2013年度第2四半期決算概況

2013年11月1日
アステラス製薬株式会社
代表取締役社長
畑中 好彦

注意事項

資料中の業績見通し数値及び開発見通し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。そのような要因の例としては、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。
医薬品（開発中の物を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2013年度第2四半期決算概況

（億円）

	2012年度 2Q実績	2013年度 2Q実績	増減率	2013年度 2Q予想 （期初予想）#	2Q予想 達成率
売上高	4,768	5,567	+16.7%	5,670	98.2%
売上原価	1,502	1,694			
売上高比率	31.5%	30.4%	―		
研究開発費	835	1,022	+22.3%	1,050	97.3%
売上高比率	17.5%	18.4%			
その他販管費	1,546	2,005	+29.7%		
営業利益	883	845	-4.4%	830	101.9%
経常利益	903	830	-8.0%	830	100.1%
四半期純利益	574	481	-16.0%	520	92.7%

特別損益（net）-138億円
・事業再編費用（研究体制の再編、富士工場の承継）
・特許権などの減損損失

減価償却費［有形+無形］（億円）
・2012年度2Q：223
・2013年度2Q：299

のれん償却費（億円）
・2012年度2Q：57
・2013年度2Q：29

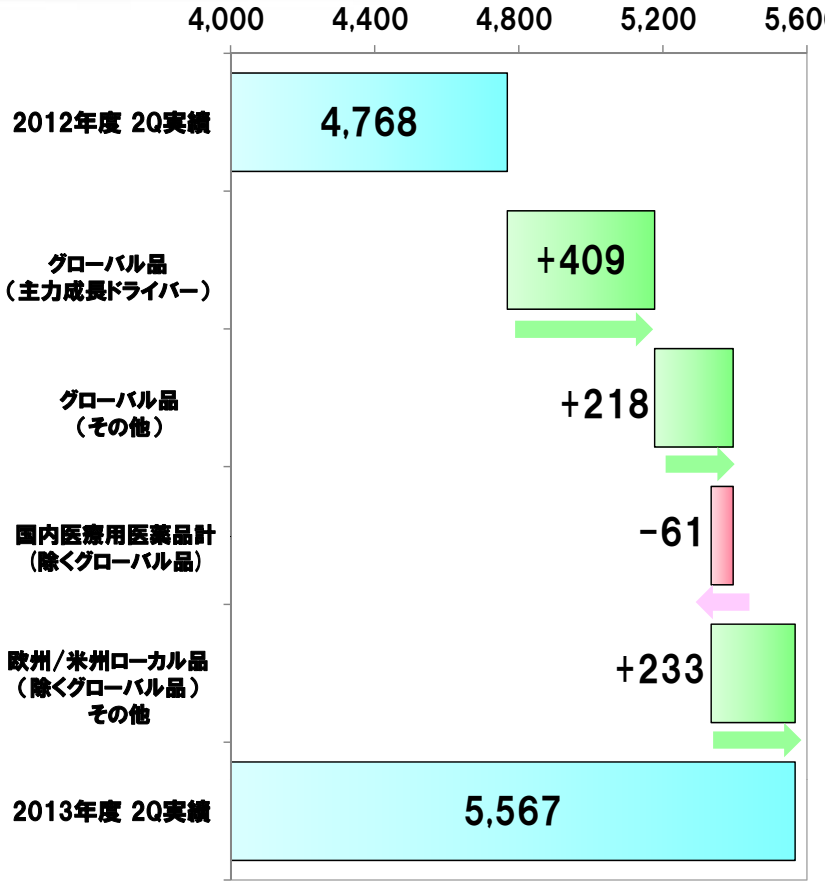
◆ 為替の状況

＃2013年5月 2012年度決算発表時公表

【期中平均レート】	2012年度2Q	2013年度2Q	変動	2013年度2Q想定
ドル	79円	99円	19円安	100円
ユーロ	101円	130円	29円安	130円

【期首-期末の変動】	2012年度2Q	2013年度2Q
ドル	5円高	4円安
ユーロ	10円高	11円安

2013年度第2四半期業績：売上高の変動要因（前同比較）



売上高：+798億円

・為替の影響：　+613億円

①グローバル品（主力成長ドライバー）：+409
ベシケア+121 / ミラベグロン +93 / XTANDI +194

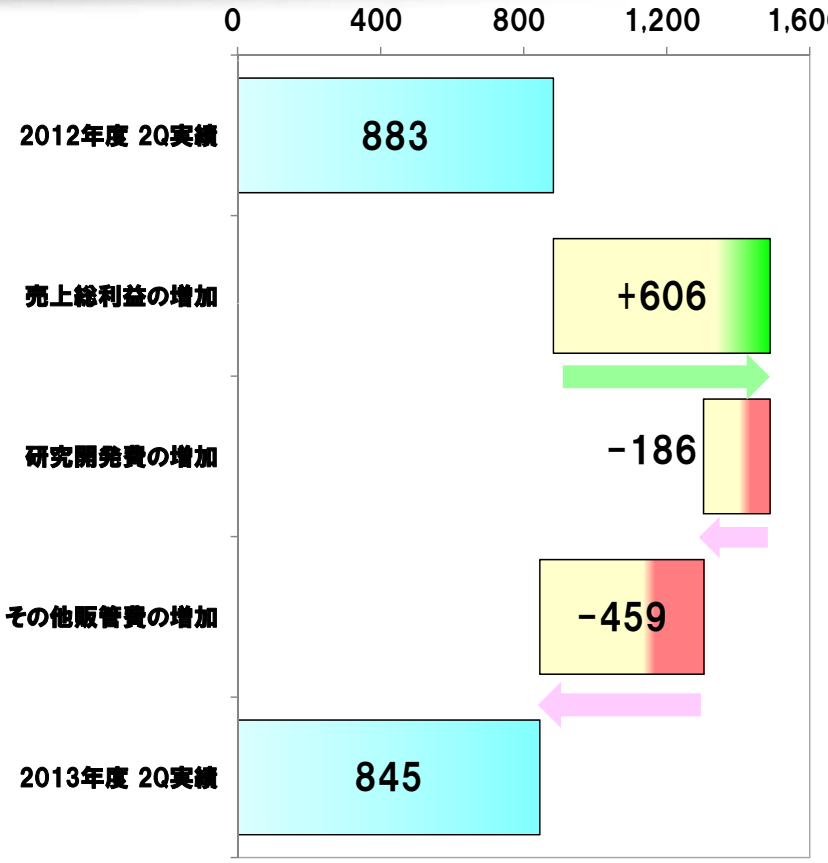
②グローバル品（その他）：+218
プログラフ+113 /ハルナール +23 /
ファンガード+26/プロトピック +34 / エリガード+20

③国内医薬品計(除くグローバル品)：-61
新製品+成長品 +103 / ミカルディス+33
リピトール -45 / ガスター -22 / マイスリー -28 /
セロクエル -47

④欧州/米州ローカル品（除くグローバル品）その他：+233
スキャン +72 / タルセバ +54 /
欧州その他製品群　約+80

【対予想】　-102億円　［為替の影響：-22億円］
- 日本 -152（後発品の影響など）
- 米州 +58　（スキャン、ミラベトリック、ベシケアの好調）

2013年度第2四半期業績：営業利益の変動要因（前同比較）



営業利益：－38億円

・為替の影響：　+77億円

売上高の増加：　+798
売上原価の増加：-191
} 売上総利益の増加 +606
原価率低下　－1.1ppt（31.5%→30.4%）
－製品構成の変化等 －2.4ppt
－未実現利益消去の為替の影響 +1.3ppt

研究開発費の増加：-186
－導入一時金の増加

その他販管費の増加：　-459
－欧米のがんビジネス関連費用
－新興国での営業力強化
－新製品立ち上げ関連費用

【対予想】 +15億円　［為替の影響：－3億円］
- 売上高は予想を下回る
- 原価率は想定を下回る：製品構成の変化
- 販管費は想定を下回る：発生時期のずれ

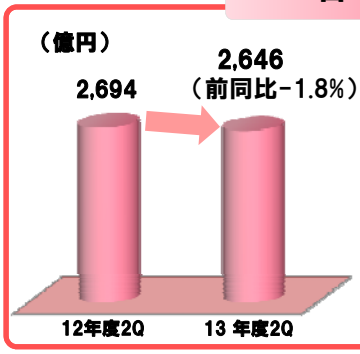
地域別売上高（現地通貨ベース）

＊売上元会社の所在地に基づき集計

日本は減収だが、米州・欧州・アジアは順調に売上を拡大

日本

（億円）



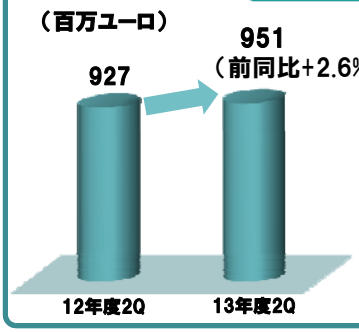
日本市場の売上高：
2,572億円（－1.8%）
・後発医薬品の影響などにより減収
・主力成長品及び新製品は着実に拡大



欧州

＊中近東・アフリカを含む

（百万ユーロ）



・ベシケア、マイカミンが伸長
・新製品XTANDIの寄与



米州

（百万ドル）



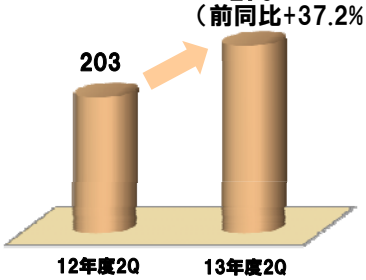
・新製品XTANDI、ミラベトリックの寄与
・ベシケア、スキャン、タルセバの成長



アジア

＊オセアニアを含む

（億円）



+8.4%
除く為替の影響

・全ての主力品が伸長

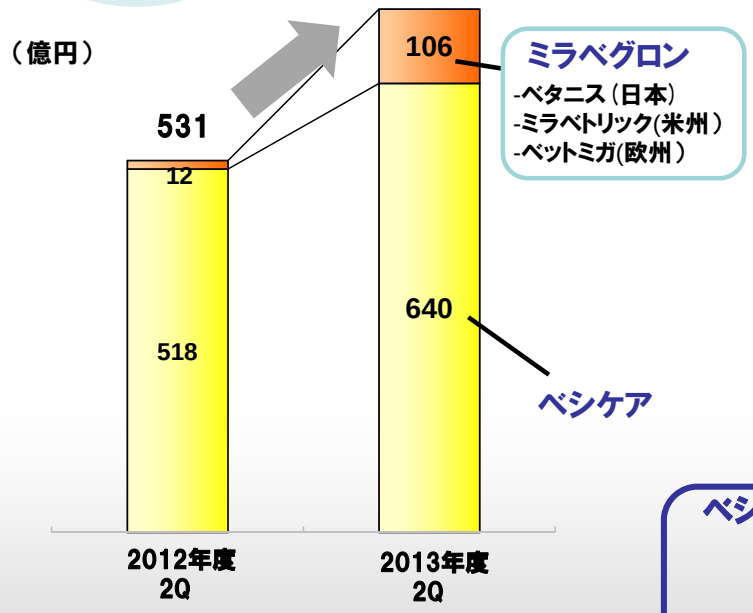


泌尿器OABフランチャイズ

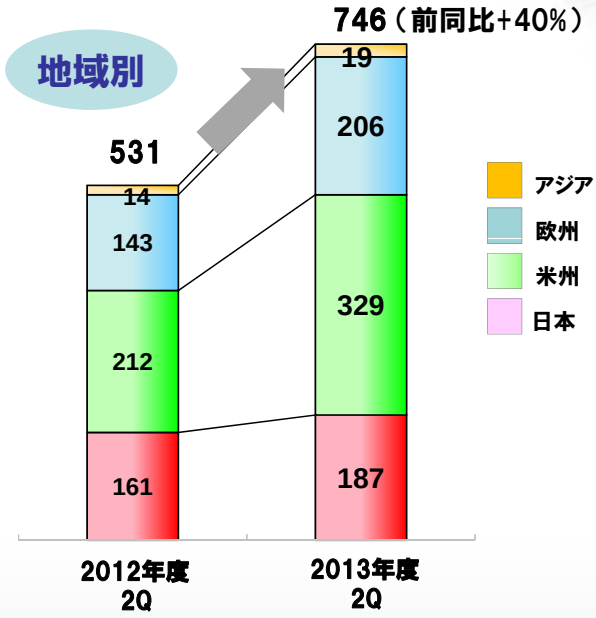
ベシケアの成長と新製品ミラベグロンの寄与で売上拡大

ベシケア、ミラベグロンの売上合計

製品別



地域別



ベシケア＋ミラベグロンの成長率[前同比]

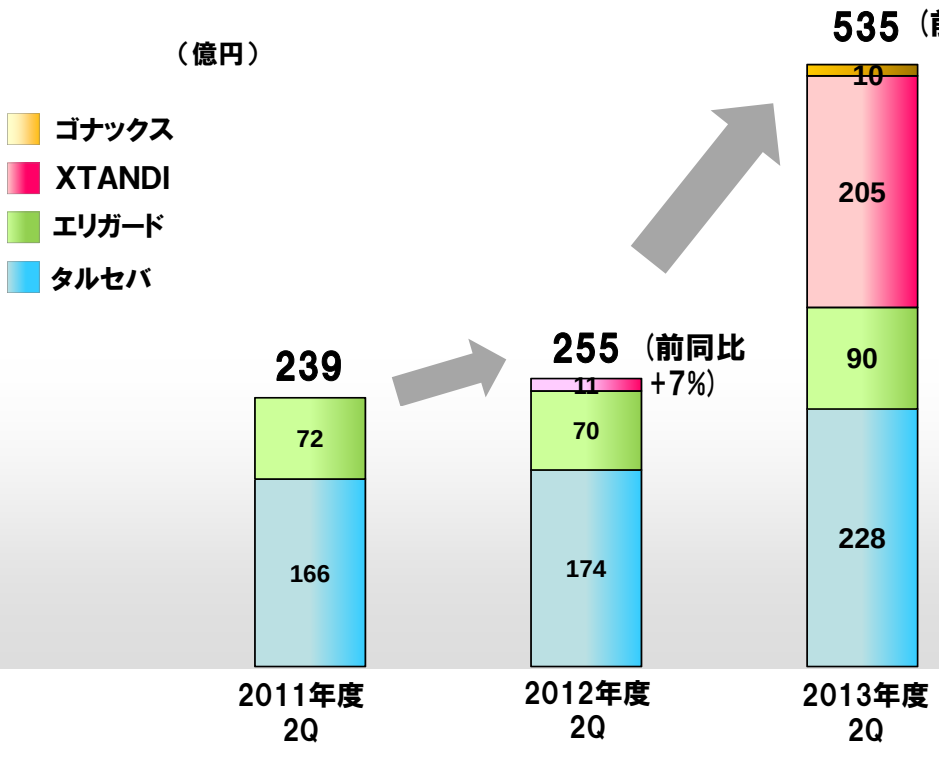
- 日本： +16%
- 米州： +25%（ドルベース）
- 欧州： +12%（ユーロベース）
- アジア：+14%（除く為替の影響）

OAB: 過活動膀胱

がん領域フランチャイズ

新製品XTANDIの寄与により、がんフランチャイズは大きく拡大

XTANDI、タルセバ、エリガード、ゴナックスの売上合計

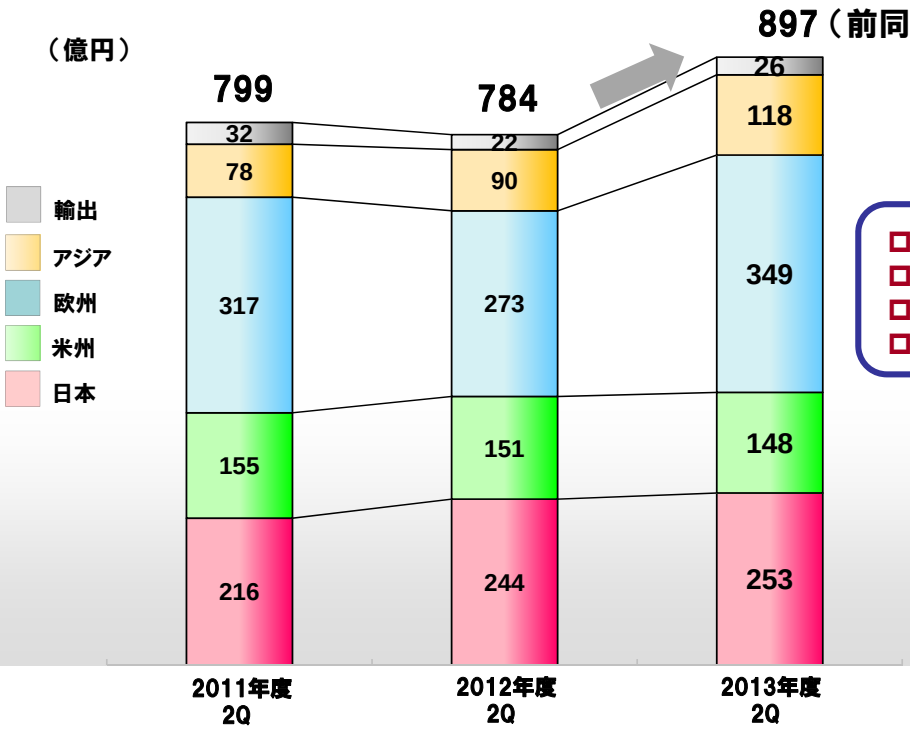


- XTANDI
  - 米州 192 百万ドル
  - 欧州 11 百万ユーロ
- エリガード
  - 欧州 69 百万ユーロ
  - ほぼ前同並み
- タルセバ関連収入
  231 百万ドル
  前同比 +6%（ドルベース）

移植フランチャイズ

日本とアジアの成長により、グローバル売上を維持

プログラフ、アドバグラフ／グラセプター／アスタグラフXLの売上合計



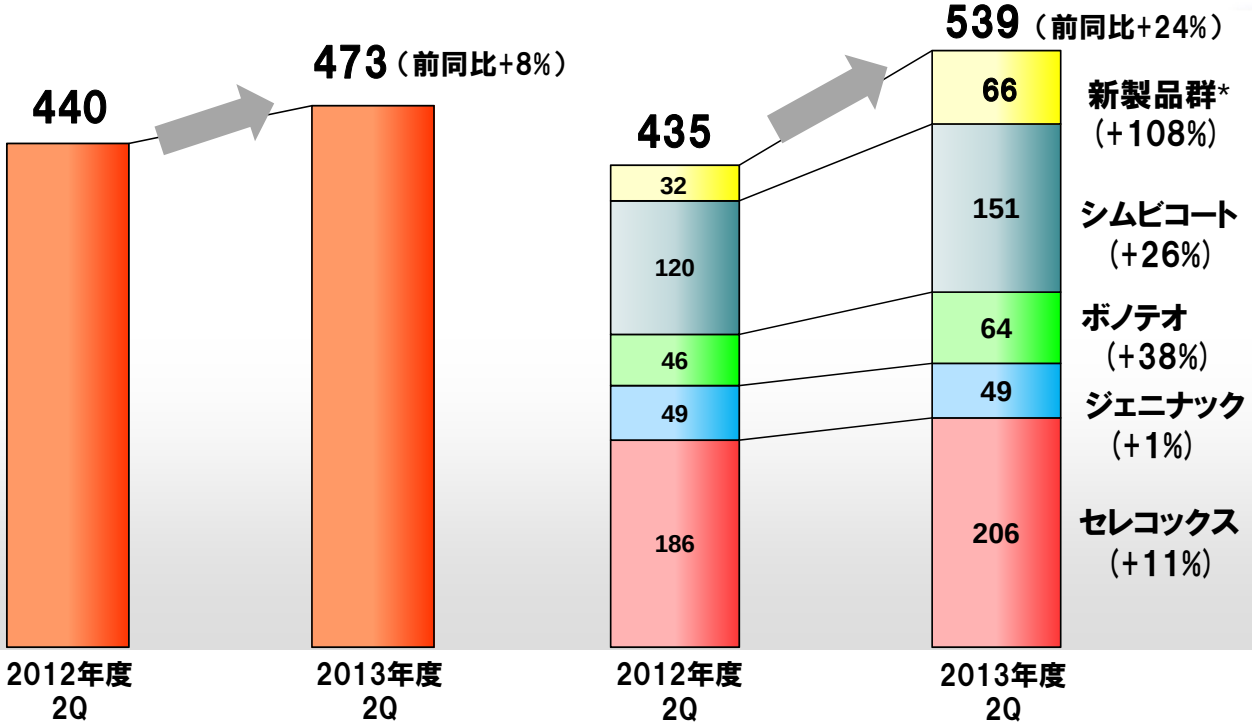
［前同比］
- 日本： +4%
- 米州： −21%（ドルベース）
- 欧州： −1%（ユーロベース）
- アジア： +3%（除く為替の影響）

日本 主要製品群（グローバル製品除く）

主力成長品と新製品の売上は着実に拡大

ミカルディス［ファミリー］

新製品群・成長品群



*新製品群：アーガメイト、キックリン、レグナイト、ゴナックス、シムジア、アコファイドの合計売上

継続的な新製品投入（2013年4月以降の取り組み）

■4極における承認・発売（下線：前回決算発表からのアップデート）

【欧州】
- ➢7月 XTANDI発売*
- ➢9月 ベソムニ発売
  （前立腺肥大症）

【アジア・オセアニア】
- ➢5月 オーストラリア
  マイカミン承認
- ➢6月 香港
  エリガード発売
- ➢8月 マレーシア
  マイカミン承認
- ➢9月 オーストラリア
  ミラベグロン承認
- ➢10月 韓国
  XTANDI発売*

【日本】
- ➢5月 ミカムロBP発売
- ➢6月 アコファイド発売
  （機能性ディスペプシア）
- ➢6月 プログラフ効能追加
  （多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎）
- ➢8月 イリボーOD錠承認
  （過敏性腸症候群）
- ➢9月 ビソノテープ発売
  （高血圧症）

【米州】
- ➢4月 カナダ
  ミラベトリック発売
- ➢5月 米国
  タルセバ効能追加
  （EGFR変異NSCLC一次治療）
- ➢6月 米国
  マイカミン 小児への効能追加
- ➢6月 カナダ
  XTANDI発売*
- ➢8月 米国
  アスタグラフXL発売
  （タクロリムス徐放性製剤）
- ➢9月 アルゼンチン
  XTANDI承認*

*化学療法施行歴を有する転移性去勢抵抗性前立腺がん　NSCLC：非小細胞肺がん

2013年度通期業績修正予想

（億円）

	2013年度 期初予想	2013年度 修正予想	差異
売上高	11,700	11,550	-150
研究開発費	2,120	2,120	0
売上高比率	18.1%	18.4%	
営業利益	1,700	1,700	0
経常利益	1,700	1,700	0
当期純利益	1,100	1,000	-100

備考

□ 売上高は期初予想から下方修正

【変動要因】
- ➢日本市場 約-270億円
  （後発品の影響、成長品の下方修正）
- ➢米州 約+130億円
  （スキャン、ミラベトリック、ベシケアの上方修正）

［為替の影響：-26億円］

□ 営業利益は期初予想を据え置き

【変動要因】
- ➢売上高は期初予想を下回る
- ➢原価率は期初想定を下回る：製品構成の変化
- ➢販管費は期初想定を下回る
  （研究開発費は据え置き）

［為替の影響：-5億円］

◆ 為替レート（期中平均）

ドル	100円	99.4円
ユーロ	130円	130.0円

◆2013年度3Q以降の為替レートの想定：1ドル100円、1ユーロ130円

新薬パイプライン

astellas
Leading Light for Life

パイプラインの状況

:自社品新規　:自社品 追適・追剤　: 導入品　赤:前回決算からの変化

	申請中	P3	P2	P1
泌尿器疾患		ソリフェナシン(小児、欧米) ソリフェナシン/ミラベグロン(欧米亜)	ASP3652(BPS/IC、欧) ASP4901(AKP-002)(BPH、日)	ASP0306 ASP3652(日) ASP6432
免疫疾患(移植を含む)および感染症		セルトリズマブ ペゴル(RA(メトトレキサート未治療)、日) イサブコナゾール(アスペルギルス、カンジダ、欧米) ASP0113(造血細胞移植時CMV感染抑制、欧米) ASP7374(インフルエンザ、日)	ASKP1240(移植、米) ASP015K(RA、日) ASP7373(インフルエンザ、日) ASP0113(臓器移植時CMV感染抑制、欧米、造血細胞移植時CMV感染抑制、日)	ASKP1240(日) フィダキソマイシン(日)
がん	エンザルタミド(前立腺がん、日)	エンザルタミド(前立腺がん(化学療法未治療、欧米日亜/非転移性、欧米亜)) エルロチニブ(NSCLC等、米) デガレリクス(3M製剤、日)	リンシチニブ(卵巣がん、米) チボザニブ(乳がん・大腸がん、欧米) エンザルタミド(乳がん、欧米)	AGS-16M8F・AGS-16C3F ASG-22ME ASP1707(前立腺がん、欧) ASP3026 ASP9853, rilotumumab ASG-15ME, ASP2215 ASP5878
精神・神経疾患	ミダゾラム(歯科・口腔外科、日)	クエチアピン(双極性障害、日) カプサイシン(糖尿病性神経因性疼痛、欧)	クエチアピン(大うつ病、日) ASP8477(神経因性疼痛、欧)	ASP9226 ASP3662
糖尿病合併症および腎疾患、その他	イプラグリフロジン(2型糖尿病、日)	roxadustat(慢性腎疾患に伴う貧血、欧) ベラプロスト(慢性腎不全、日亜) ビキサロマー(保存期慢性腎不全患者 高リン血症、日) ラモセトロン(IBS女性、日) ナテグリニド(2型糖尿病、日) romosozumab(骨粗鬆症、日) AMG145(脂質異常症、日)	roxadustat(慢性腎疾患に伴う貧血、日) YM311(腎性貧血、欧) リナクロチド(IBS、日) ASP1707(子宮内膜症、欧日)	ASP7991 YM311(日) ASP8232 ASP3325 CK-2127107

BPS/IC: 膀胱痛症候群/間質性膀胱炎、BPH: 前立腺肥大症、RA:関節リウマチ、CMV:サイトメガロウイルス、NSCLC:非小細胞肺がん、IBS:過敏性腸症候群

2013年8月からの変化 <承認、ステージアップ>

■ 承認

製品名（一般名）	対象疾患	地域	ステージ	変化
イリボーOD錠（ラモセトロン）	男性における下痢型過敏性腸症候群	日本	承認	2013年8月に日本で承認。

OD: Orally disintegrating

■ ステージアップ

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	変化
MDV3100 エンザルタミド	非転移性去勢抵抗性前立腺がん	米国 欧州 アジア	P3	欧米亜でP3入り。
AMG 145	脂質異常症	日本	P3	日本でP3入り。
ASP8477	神経因性疼痛	欧州	P2	欧州でP2入り。

astellas
Leading Light for Life

2013年8月からの変化 <新規、開発中止等>

■ 新規P1

開発コード	対象疾患	ステージ	変化
ASP5878	がん	P1	新規P1入り。

■ 開発中止

開発コード 一般名	対象疾患	ステージ	中止理由
ASP2408	関節リウマチ	P1	戦略的な観点から開発を中止した。
ASP2409	臓器移植における拒絶反応の抑制	P1	戦略的な観点から開発を中止した。

■ 一部適応の開発中止

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	中止理由
ASP7487 (OSI-906) リンシチニブ	卵巣がん、~~非小細胞肺がん~~	米国	P2	期待された有効性の結果が得られなかったため、非小細胞肺がんの適応での開発を中止した。卵巣がんでの開発は継続する。

astellas
Leading Light for Life

抗がん剤パイプライン

	PJ	がん種	特徴	P1	P2	P3	申請
低分子	エンザルタミド（XTANDI）	前立腺がん（化学療法未治療、非転移性）、乳がん	アンドロゲン受容体阻害剤	前立腺がん：日本 化学療法未治療：欧米日亜 非転移性：欧米亜 乳がん：欧米			
低分子	エルロチニブ（タルセバ）	非小細胞肺がん（アジュバント療法、MetMAbとの併用療法）、小児上衣腫	HER1/EGFRチロシンキナーゼ阻害剤	米国			
低分子	デガレリクス（ゴナックス）	前立腺がん	日本初のGnRHアンタゴニスト	3M製剤：日本			
低分子	チボザニブ ASP4130	大腸がん、乳がん	強力かつ選択的で半減期の長いVEGF受容体1,2,3阻害剤	欧米			
低分子	リンシチニブ ASP7487 (OSI-906)	卵巣がん	IGF-1R/IRチロシンキナーゼ阻害剤	米国			
低分子	ASP1707	前立腺がん*	経口のGnRHアンタゴニスト				
低分子	ASP3026	がん	ALKチロシンキナーゼ阻害剤				
低分子	ASP9853	がん					
低分子	ASP2215	がん					
低分子	ASP5878	がん					
抗体	AGS-16M8F・AGS-16C3F	腎臓がん	ADC技術を活用した抗体（標的：ENPP3）				
抗体	ASG-22ME	固形がん	ADC技術を活用した抗体（標的：ネクチン-4）				
抗体	ASG-15ME	膀胱がん	ADC技術を活用した抗体（標的：SLITRK6）				
抗体	リロツムマブ AMG 102	胃がん	抗HGF抗体	日本			

*子宮内膜症でP2

エンザルタミド：開発の進展

試験	対象	デザイン	P1	P2	P3	申請
欧米 P3試験 [AFFIRM試験]	化学療法後 転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,199)	試験終了 ➢米国発売：2012年9月13日 ➢欧州発売：2013年7月11日（英国）			
日本 P1/2試験	化学療法後 転移性去勢抵抗性前立腺がん	オープン試験 (n=46)	申請：2013年5月24日 申請適応症は前立腺がん 優先審査に指定			
欧米日亜 P3試験 [PREVAIL試験]	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,717)	中間解析の結果が判明：2013年10月			
欧米亜 P3試験 [PROSPER試験]	M0 CRPC 非転移性去勢抵抗性前立腺がん	-	試験開始準備中 2013年中に開始予定			
欧米 P2試験 [TERRAIN試験]	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	ビカルタミドとの比較試験 (n=375)	患者組み入れ終了：2013年7月			
米国 P2試験 [STRIVE試験]	化学療法未治療 転移性または非転移性 去勢抵抗性前立腺がん	ビカルタミドとの比較試験 (n=400)	実施中			
米国 P2試験	ネオアジュバント療法 前立腺切除術実施前	単剤またはリュープロレリン、デュタステリドとの併用 (n=50)	患者組み入れ終了；2013年3月			
欧州 P2試験	ホルモン療法未治療 進行性前立腺がん	オープン試験 (n=67)	試験終了			
欧米 P2試験	乳がん アンドロゲン受容体陽性のトリプルネガティブ進行再発乳がん	オープン試験 (n=80)	患者組み入れ開始：2013年6月			

エンザルタミド：第III相PREVAIL試験の中間解析で良好な結果が判明

- 主要評価項目である全生存期間（OS）と画像診断による無増悪生存期間（rPFS）へのベネフィットを共に確認
- 独立データモニタリング委員会（IDMC）は良好なベネフィット・リスクが示されたと結論
- 試験の早期終了とプラセボ群の患者へのエンザルタミド治療の提案をIDMCが勧告

OS:
- *死亡のリスクが 30% 低下、HR=0.70（95% CI, 0.59-0.83）（p<0.0001）*
- 中間解析実施時点における生存率は、エンザルタミド群で72%に対し、プラセボ群では65%
- OSの中央値はエンザルタミド群で 32.4 ヵ月（95% CI, 31.5-NR）、プラセボ群で 30.2 ヵ月（95% CI, 28.0-NR）

rPFS:
- *画像診断による増悪または死亡のリスクが 81% 低下、HR=0.19（95% CI, 0.15-0.23）（p<0.0001）*
- rPFSの中央値はエンザルタミド群で未達（95% CI, 13.8-NR）、プラセボ群で 3.9 ヵ月（95% CI, 3.7-5.4）

- *上記データは主要な解析結果である。安全性、副次評価項目、カプランマイヤー生存曲線の詳細な解析は中間解析実施時点のデータをもとに、データベースを固定し盲検化を解除した後に実施。*

➢ エンザルタミドは、化学療法施行歴のない転移性前立腺がん患者において、プラセボ群に対し統計学的に有意な改善をOSとrPFSの両方で示した初めての薬剤である。

HR: ハザード比, CI: 信頼区間, NR: Not reached

イサブコナゾール：第III相SECURE試験で良好な結果サマリー判明

P3試験の状況

アスペルギルス	SECURE試験	良好な結果サマリーが判明	侵襲性アスペルギルス症
	VITAL試験	患者組み入れ終了	腎障害を有する侵襲性アスペルギルス症、ムコール菌やその他の新たな真菌による侵襲性の真菌感染症
カンジダ	ACTIVE試験	実施中	侵襲性カンジダ血症

SECURE試験

試験概要	対象疾患	アスペルギルスまたは他の糸状真菌による侵襲性の真菌感染症に対する一次治療
	デザイン	ボリコナゾール対照　二重盲検試験
	投与群	イサブコナゾール群（1日1回投与）、ボリコナゾール群（1日2回投与）
	投与期間	84日
	症例数	516例（包括解析対象）
	主要評価項目	投与42日目までの総死亡率

- イサブコナゾール群において投与42日目までの総死亡率は18.6%であったのに対し、ボリコナゾール群では20.2%と統計的な非劣性が検証され、本試験の目的を達成した。
- 有害事象の発現率は、イサブコナゾール群で96.1%、ボリコナゾール群で98.5%であった。
- 薬剤に関連した有害事象の発現率は、イサブコナゾール群で42.4%、ボリコナゾール群で59.8%であった。

ASP015K：日本の後期第II相試験で良好な結果サマリー判明

開発状況

日本	単剤P2b試験	良好な結果サマリーが判明
米国/欧州	P2b試験 （MTX 併用）	実施中
	P2b試験 （MTX 非併用）	実施中

（日本を除く全世界の開発・商業化の権利をJanssen Biotech社に導出。）

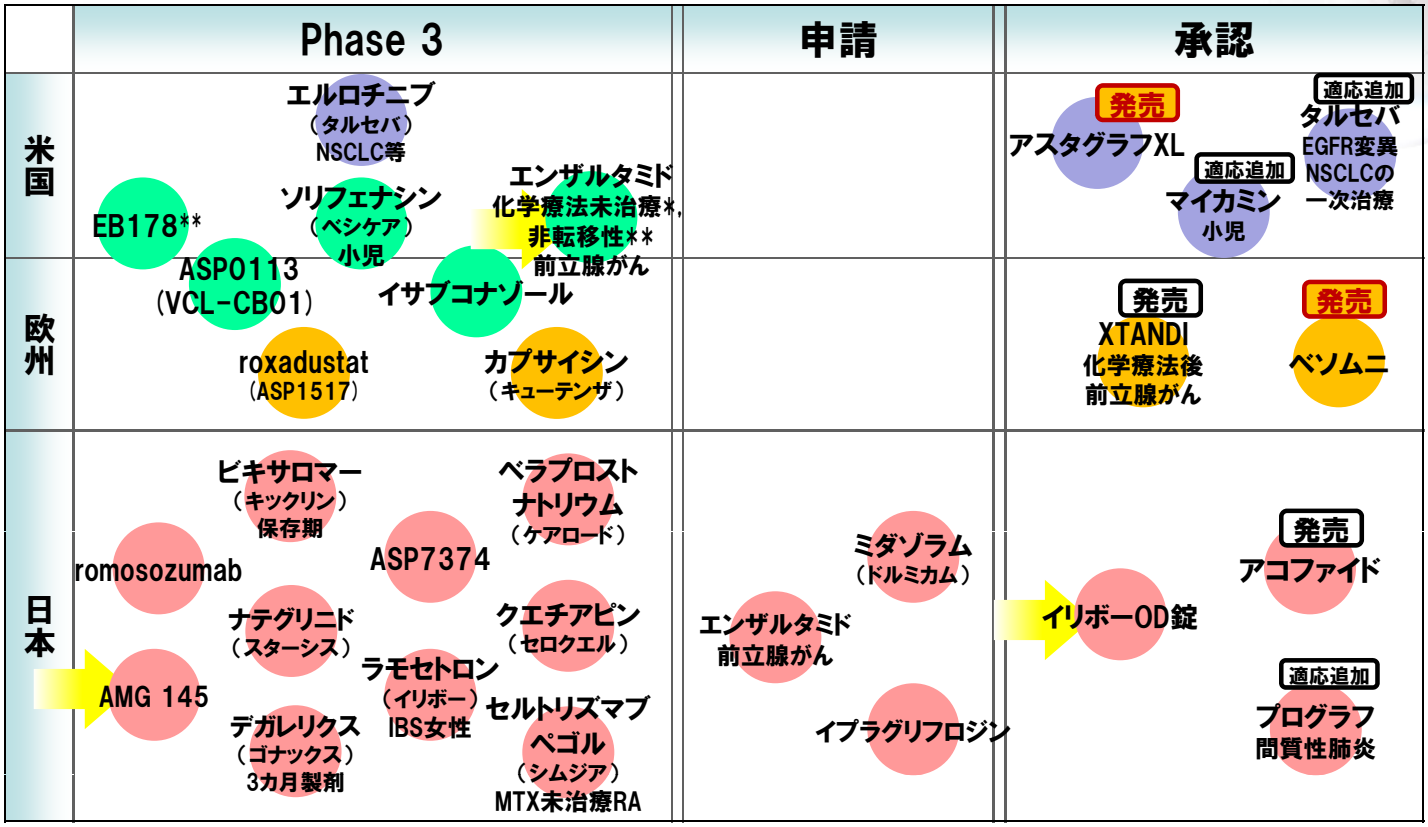
日本　単剤P2b試験

試験概要		
	対象	中等度から重度の関節リウマチ
	デザイン	プラセボ対照　用量設定　二重盲検試験
	投与群	ASP015K（1日1回経口投与）4群、プラセボ群
	投与期間	12週
	症例数	281例
	主要評価項目	投与12週後/投与終了時のACR20改善率

- 主要評価項目であるACR20改善率が、ASP015Kの高用量3群においてプラセボ群と比較して有意に高かった。
- ASP015Kの良好な忍容性と安全性が確認され、P3の開発を支持する結果が得られた。

MTX：メトトレキサート

2013年度　後期開発品の進展



IBS:過敏性腸症候群、NSCLC：非小細胞肺がん
RA:関節リウマチ、MTX:メトトレキサート

継続成長に向けた取り組み

-Build Resilience for Sustainable Growth-

2013年度における取り組み

新製品価値の最大化

- がん領域の強化（XTANDI拡大・追加適応症）
- OABフランチャイズの最大化（ベシケア、ミラベグロン）
- アムジェンとの日本における戦略的提携
- イプラグリフロジンに関するMSDとのコ・プロモーション契約締結

新薬創出力の強化

- 研究体制の再編と、新たな仕組みの導入を決定
  イノベーションマネジメント部の設置
- 再生医療： 細胞治療への本格的な取り組み
- サイトキネティックス社、マイトカイン社との提携
- アンブレックス社から次世代ADC技術を導入

オペレーションの高質化

- アステラス ファーマ テック富士工場の日医工への承継
- グループ共通業務（一部）のAccentureへのアウトソーシング
- 開発・信頼性保証本部等の日本橋への集約、蓮根事業所（板橋区）の閉鎖

事業構造の改革に伴い、組織及び人材に求められる要件も変化

- 要員適正化のため、2014年度に早期退職優遇制度を実施（募集人員：300名）

経営資源配分の最適化を一層推進

新薬創出力の強化に関する取り組み

マイトカイン社との提携

外部資源を活用し、創薬研究をフロンティア領域へ拡大

ミトコンドリア関連疾患領域

astellas ⟷ Mitokyne

共同研究・開発
（期間:5年間）

臨床開発を主導

研究を主導

研究員を派遣
研究費の一部を支払い

他VCと共に出資
（総額45百万ドル）

マイトカイン社を
買い取る
独占的な権利

astellas INNOVATION MANAGEMENT AIM

バイオベンチャー、アカデミア、CRO、キーオピニオンリーダーなどと
機動的な研究体制を構築し、創薬のオープンイノベーションを推進

オペレーションの高質化に向けた取り組み

ATEC*富士工場の日医工への承継

- 生産・技術面においても、自社機能の強化とともに
  外部パートナーとのアライアンスを推進
- 「高品質な医薬品の安定供給」を効率的に行える、
  変化に強い生産体制を確立



*アステラス　ファーマ　テック

グループ共通業務（一部）のAccentureへのアウトソーシング

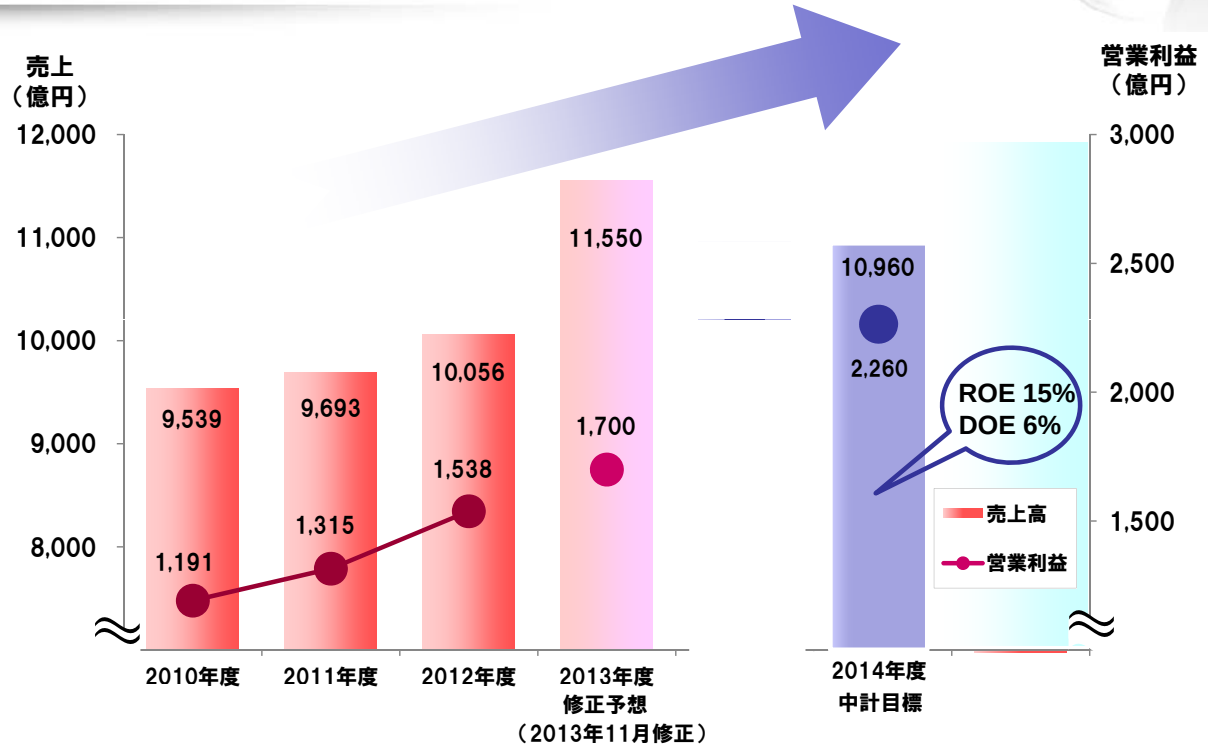
- グループ共通業務（一部）は外部リソースを活用し、高質化・効率化を一層推進
- 競争優位の源泉となる機能に自社資源を配分

ビジネスプロセスアウトソーシング（BPO）

astellas ⟷ accenture

サービス提供

環境変化にしなやかに対応し、持続的な成長を実現



2013年度通期修正予想
➢期初予想から営業利益は据え置き。ただし売上高は下方修正

利益配分等に関する方針

- **成長を実現するための事業投資を最優先**
- **中長期的な利益成長に基づき、配当は安定的かつ持続的に向上**
- **自己株式取得は機動的に実施**

	2011年度	2012年度	2013年度（予想）
EPS	169.38円	180.40円	221.63円(**)
一株配当	125円	130円	135円
ROE	7.7%	8.0%	—
DOE	5.7%	5.7%	—
自己株式取得(*)	—	1,080万株 （493億円）	機動的に実施
自己株式消却	—	—	1,100万株 （2013年5月実施済み）

2013年度中間配当 1株当たり 65円

*単元未満株式買取分を除く

** 2013年11月1日に決定した自己株式取得（上限530万株）は反映していない

自己株式取得

資本効率と株主還元の更なる向上を図る

11月1日、取締役会において自己株式取得に係る事項を決定

■取得を行う理由	資本効率と株主還元の更なる向上を図るため
■取得対象株式の種類	当社普通株式
■取得しうる株式の総数	530万株(上限) (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合:1.17%)
■株式の取得価額の総額	300億円(上限)
■取得期間	2013年11月5日から2013年12月16日まで

*2013年9月30日時点の自己株式の保有状況

発行済株式総数(自己株式を除く)	451,217,914株
自己株式数	5,746,721株

astellas
Leading Light for Life



明日は変えられる。

astellas
Leading Light for Life

